

ギリシャ神話

「オルフェオ伝説」より



愛しいエウリディーチェは死んでしまった...

ジュピターさまがお許しくださった。妻を取り戻せ。ただ、地上まで振り向いちゃだめよ。



黄泉の国の門番よ、私を通してくれ



どうして私を見てくださらないの？私を愛しているの？！

いや、ちよっと誤は言えない...

もう我慢できないよ！エウ...



ああ、二度までも彼女を失ってしまった...

ちよっと待って...

ちよっと待って...

...つづく

オペラ「オルフェオとエウリディーチェ」

コレペティトゥーア：岩井沙織、須藤尚美

土屋益子、時岡牧子

舞台監督：坂本由希子

照明：高橋正和

制作：オフィス・ワン

イラスト：黒川絵里奈

あらすじイラスト：田中千絵子

主催：特定非営利活動法人札幌室内歌劇場

共催：札幌サンプラザ

後援：札幌市、札幌市教育委員会、北海道新聞社

「オルフェオとエウリディーチェ」(初演 1762 ウィーン)

第1幕 墓場

豎琴と歌の名手であるオルフェオは、妻エウリディーチェの死を嘆き悲しんでいる。羊飼いや精霊たちも嘆きの歌を歌っている。すると愛の神が現れ、エウリディーチェを黄泉の国から連れ戻す許しがジュピターから与えられたと告げる。ただし地上に戻るまで決してエウリディーチェを見てはならないことが条件だという。オルフェオは決意し、黄泉の国へと向かう。



アポロンの息子
豎琴と歌の名手
オルフェオ
松田久美 (メゾソプラノ)



オルフェオの妻
エウリディーチェ
松嶋 瞳 (ソプラノ)



オルフェオの理解者
愛の神
萩原のり子 (ソプラノ)



指揮
則竹正人



合唱指揮
時岡牧子

第2幕 黄泉の国の入り口と死者の楽園

オルフェオが黄泉の国の入口までやって来ると、復讐の女神や亡霊たちが現れ彼の行く手を阻む。しかし妻を想う歌に心揺さぶられ、入ることを許す。

オルフェオが黄泉の国にたどり着くと、精霊たちがエウリディーチェを連れて来る。二人は手を取り合いともに地上を目指す。

第3幕 洞窟と愛の神の神殿

洞窟を歩みながら、エウリディーチェは自分を見てくれない夫に不安を抱く。オルフェオは妻の嘆きに耐え切れず、ついに神との約束を破り振り返る。するとエウリディーチェは再び黄泉の国に消える。

オルフェオは彼女なしにどうすれば良いのかと絶望し自らの命を絶とうとする。すると愛の神が現れ、愛の深さに免じて妻を返すと告げる。オルフェオはエウリディーチェと抱き合い喜び合う。羊飼いやニンフも愛の神を讃える。

C.W. グルック (1714-1787)

カストラートの技巧に振り回されていたバロックオペラをよしとせず、詩の内容とドラマを深く表す本来の音楽劇を目指しました。(「グルックのオペラ改革」)。古典派ならではの端正で美しい音楽をお楽しみください。



合唱団コール・ピッコラ第12期公演「ねずみの嫁入り」より

札幌室内歌劇場 30周年記念事業

★Vol.2 オペラ「アブ・ハッサン」

日時：12月6日(金)、7日(土)

会場：ことにパトス

★Vol.3 30周年記念コンサート

日時：2020年1月19日(日)

会場：サンプラザコンサートホール

★Vol.4 オペラみらい募金

皆さまのご支援によって30年に渡りオペラ95公演を道内外で開催してきた札幌室内歌劇場。これからも札幌・北海道ならではの楽しいオペラと、文化的な社会を築いて参ります。

どうぞご寄付くださいますようお願い申し上げます。



ネット上でも
寄付頂けます